

安全データシート

改訂日:2022年3月11日

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称
チオシアノ酸アンモニウム
会社名
米山薬品工業株式会社
住所
大阪市中央区道修町2丁目3番11号
電話番号
(06)6231-3555(大阪・本社)
(03)3246-2311(東京) (0268)22-5910(上田)
(052)504-2221(名古屋) (082)537-0290(広島)
整理番号
DB0063

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類
健康に対する有害性
急性毒性(経口): 区分4
特定標的臓器毒性(反復ばく露): 区分1(甲状腺)
GHSラベル要素
絵表示又はシンボル



注意喚起語
危険有害性情報

注意書き

危険
飲み込むと有害
長期にわたるまたは反復ばく露による甲状腺臓器の障害
【安全対策】
取扱い後は手をよく洗うこと。
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
粉じん、ヒューム、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
【応急措置】
飲み込んだ場合: 気分が悪い時は医師に連絡すること。
口をすすぐこと。
気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
【廃棄】
内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別
化学名又は一般名
チオシアノ酸アンモニウム
慣用名又は別名
ロダンアンモニウム
化学式
NH₄SCN
化学物質を特定できる一般的な番号
CAS RN: 1762-95-4
濃度又は濃度範囲
97.5%以上
官報公示整理番号(化審法・安衛法)
(1)-142

4. 応急措置

吸入した場合
空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。
皮膚に付着した場合
多量の水と石鹼で洗うこと。
皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。
眼に入った場合
水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易にはずせる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
直ちに医師の診断を受けること。
飲込んだ場合
口をすすぐこと。
直ちに医師の診断を受けること。

5. 火災時の措置

適切な消火剤
不燃性である。周辺の火災状況に応じて適切な消火剤を使用する。
使ってはならない消火剤
情報なし
火災時の特有の危険有害性
不燃性であり、それ自身は燃えないが、加熱されると分解して、腐食性及び/又は毒性の煙霧を発生するおそれがある。
火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。
危険でなければ火災区域から容器を移動する。
安全に対処できるならば着火源を除去すること。
特有の消火方法
適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性)を着用する。
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置
直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
関係者以外の立入りを禁止する。

環境に対する注意事項
封じ込め及び浄化の方法及び機材
二次災害の防止策

密閉された場所に立入る前に換気する。
全ての着火源を取り除く。
環境中に放出してはならない。
粉塵の立たない方法で出来るだけ掃き集め、空容器等に回収する。
水で湿らせ、空気中のダストを減らし分散を防ぐ。
プラスチックシートで覆いをし、散乱を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

安全取扱い注意事項
接触回避
衛生対策

吸い込んだり、目、皮膚および衣類に触れないように、適切な保護具を着用する。
取扱いについては、局所排気装置または全体換気装置を使用する。
粉じん、ヒューム、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
強酸化剤、強酸
取扱い後は手をよく洗うこと。
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。

保管

安全な保管条件
安全な容器包装材料

容器を密閉して換気の良い冷暗所で保管する。
ポリプロピレン、ガラス

8. 暴露防止及び保護措置

許容濃度等

管理濃度
日本産業衛生学会
ACGIH
設備対策

未設定
未設定
未設定
この物質を貯蔵しないし取扱う作業場には、適切な洗眼器と安全シャワーを設置すること。
ばく露を防止するため、作業場には適切な全体換気装置、局所排気装置を設置すること。

保護具

呼吸用保護具
手の保護具
眼、顔面の保護具
皮膚及び身体の保護具

適切な呼吸器保護具を着用すること。
適切な保護手袋を着用すること。
適切な眼/顔面の保護具を着用すること。
適切な保護衣を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態

結晶

色

無色、白色

臭い

無臭

融点/凝固点

149 °C

沸点又は初留点及び沸騰範囲

分解(200~300°C)

可燃性

不燃性

爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界

不燃性

引火点

不燃性

自然発火点

不燃性

分解温度

200~300°C

pH

4.5 ~ 6.0 (50g/L, 25°C)

動粘性率

データなし

溶解度

181 g/100 g 水 (25 °C)

n-オクタノール/水分配係数

エタノールに易溶、アセトンに可溶、クロロホルムに不溶

蒸気圧

-2.29

密度及び/又は相対密度

0.00000715 mmHg (25 °C)

相対ガス密度

1.305

粒子特性

データなし

10. 安定性及び反応性

反応性

情報なし

化学的安定性

通常の取扱い条件においては安定。

潮解性がある。

危険有害反応可能性

加熱すると200~300°Cでアンモニア、炭酸ガス、硫化水素に分解する。

避けるべき条件

日光、熱、湿気

混触危険物質

強酸化剤、強酸

危険有害な分解生成物

アンモニア、硫化水素、一酸化炭素、窒素酸化物、硫黄酸化物

11. 有害性情報

急性毒性

経口：ラットLD₅₀値は500~1000 mg/kg bw (IUCLID (2000)) および750 mg/kg bw

(IUCLID (2000))に基づき、区分4とした。

経皮：データなし。

皮膚腐食性/刺激性	吸入(粉塵): データなし。 データ不足。なお、皮膚一次刺激性試験で、「刺激性なし(not irritating)」との結果(IUCLID(2000))があるが、使用動物種など基本的試験項目について記載がなく、試験の詳細が不明なため「分類できない」とした。 ウサギを用いたドレイズテストで刺激性なし(not irritating)の結果(IUCLID(2000))に基づき区分外とした。
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	呼吸器: データなし。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	皮膚: データ不足。なお、Magnusson-Kligman-Testにおいて感作性なし(not sensitizing)と報告されている(IUCLID(2000))が、それ以上の記載はなく詳細不明のため分類できない。 in vivoの試験データがなく分類できない。なお、in vitro試験ではAmes testで陰性の報告(IUCLID(2000))がある。
生殖細胞変異原性	データなし。
発がん性	データなし。
生殖毒性	データなし。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	データ不足。54歳男性がミオクローヌス発作と血管虚脱を伴う昏睡のため入院し、乏尿、代謝性アシドーシス、心停止とともに生命の危険のあるショックを起こし、人工呼吸、心肺蘇生法、血液濾過透析などによる治療施行にもかかわらず死亡した報告がある。その原因として本物質が含まれた除草剤のばく露による可能性が示唆された(HSDB(2004))が、1例のみの事例のため分類の根拠としなかった。 本物質のデータはないが、チオシアノートは甲状腺におけるヨウ素の取り込みを阻害し、甲状腺毒性を示すことが知られている(CICADs(J)61(2004)、ATSDR(2006))。また、チオシアノートはシアノ化物の主要代謝物であり、シアノ化物の職業ばく露により甲状腺機能障害および甲状腺腫が報告されている(CICADs(J)61(2004)、ATSDR(2006))ことから区分1(甲状腺)とした。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	データなし。
誤えん有害性	データなし。

12. 環境影響情報

生態毒性	短期(急性): データ不足のため分類できない。 長期(慢性): データなし。
残留性・分解性	情報なし。
生体蓄積性	情報なし。
土壤中の移動性	情報なし。
オゾン層への有害性	当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。

13. 廃棄上の注意

化学品、汚染容器及び包装の安全でかつ環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報	都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託して処理する。 廃棄物の処理を依託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。 空容器の処理を依託する場合は、内容物を完全に除去すること。
---	---

14. 輸送上の注意

国連番号	該当しない
品名(国連輸送名)	—
国連分類	—
副次危険性	—
容器等級	—
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策	食品や飼料と一緒に輸送してはならない。 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 重量物を上積みしない。
国内規制がある場合の規制情報	情報なし
応急措置指針番号	—

15. 適用法令

化学物質管理促進法(PRTR法)	指定化学物質に該当しない。
毒物及び劇物取締法	毒物及び劇物に該当しない。
労働安全衛生法	名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物[チオシアノ酸アンモニウム] [施行令別表9] (2025年(令和7年4月1日)以降)
消防法	危険性又は有害性を調査すべき物[チオシアノ酸アンモニウム] (2025年(令和7年4月1日)以降)
水質汚濁防止法	危険物に該当しない。 有害物質

16. その他の情報

参考文献	NITE-CHRIIP(製品評価技術基盤機構HP) 16615の化学商品(化学工業日報社) 職場のあんぜんサイト(厚労省HP) NITE-GHS分類結果(製品評価技術基盤機構HP) The Sigma-Aldrich Library of REGULATORY and Safety Data
------	--

The Sigma-Aldrich Library of Chemical Safety Data Edition II
Merck Index 14th.

記載内容のうち、含有量、物理／化学的性質等の数値は保証値ではありません。危険・有害性の評価は、現時点での入手できる資料・情報 データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅した訳ではありませんので取り扱いには十分注意して下さい。